令和８年度青少年グローバル共感キャンプ　参加レポート

報告者　木下　更紗

青少年グローバル共感キャンプで印象に残ったこと

私は、この研修で印象に残っているプログラムが3つあります。1つ目は「Beach Clean-up:Keep Jeju Beautiful」です。日本でも、海中にある様々なマイクロプラスチックごみが生態系へ悪影響を及ぼすということで、度々授業や環境問題などで話を聞くことがありますが、実際に済州のビーチを清掃したことにより、自分の思っていた何倍ものごみが海に流れ着いているのだなと分かりました。海にはたくさんのごみがあるということを体感したことで、これから環境問題について自分自身が考えるきっかけとなりました。

2つ目は「Designing New Symbols to Reflect our values」です。形や色などに含まれるそれぞれの意味を知りました。また、共同作業でシンボルを作る活動では、お互いのコミュニケーションが欠かせないので、たくさん英語で会話をすることができ、話す力を高められるだけでなく、この活動をきっかけに韓国の子と仲良くなることもできました。

3つ目は「Arte Museum」に行ったことです。時間の中で光によって再現されるそれぞれのテーマをもとにした世界観がとても美しく印象的でした。また、韓国の友達がそれぞれのテーマについて少し説明してくれたことで、その世界観に溶け込むことができました。

青少年グローバル共感キャンプで学んだこと

私が今回の研修で学んだことは主に2つあります。1つ目は、環境問題についてです。私は環境問題が深刻になり、環境問題についての活動が盛んに行われているのは、日本だけだという考えを持っていましたが、今回様々な面からの環境問題についての話を聞いて、多くの国々で環境問題が注目されており、様々な活動が行われているというのを知りました。日本のごみが韓国の海に流れ着いているように、環境問題は日本だけが頑張っても解決できないため、世界中の人々が環境問題に目を向け、小さなところから解決に向け、努力をしていかなければならないということを学びました。

2つ目は言語が違う人とのコミュニケーションの取り方です。初めて韓国や中国の中学生と会ったときは、「話せない」という恐怖から少しコミュニケーションをとることを避けていました。しかし、いざ話してみると、きれいに文を作ることができなくても、単語やジェスチャーだけで意外と伝えることができるということを学びました。日本語が通じる人同士で会話するとき、ジェスチャーはあまり使わないので、ジェスチャーの大切さがあまり分かっていませんでしたが、今回、言語が違う人とたくさん関わることができたおかげで、ジェスチャーの大切さについて学ぶことができました。

これから、いかしたいこと

今回の研修を通して、韓国や中国の中学生の発音やスピーキング力の高さに驚き、私ももっと発音を上達させ、スピーキング力を高めたいと思いました。また、韓国の友達と主に交流したことで韓国語に興味を持ち、韓国語を習得したいという意欲も高まりました。研修が終わってからも韓国の友達と連絡を取り続けており、楽しく英語を学ぶことができる1つの手段にもなりました。学校で習う英語ではなく、日常会話をすることが多いため、実際に使われている表現を知ることができ、より楽しく英語を学ぶことにつながっています。これからも連絡を取り合いながら、英語と韓国語を学ぶ意欲を高めていきたいです。

また、今回は自分の気持ちを十分に自分の言葉で伝えることができなかったので、これからは英語と韓国語の2つの言語を学び、言葉の壁を越えて、自分の気持ちや考えを自分の言葉で伝えられるようになりたいです。そして、今回の研修で得た経験をこれからの学習や学校生活、人との交流に生かしていきたいです。

出会い



